

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
専門学校 山形V. カレッジ	昭和61年4月1日	山本 絵里子	〒990-0834 山形県山形市清住町一丁目4番41号 (電話) 023-644-1122																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人山本学園	昭和26年11月1日	山本 恒雄	〒990-0834 山形県山形市清住町一丁目4番40号 (電話) 023-643-0358																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
工業	工業関係専門課程	情報システム科	平成21年文部科学省認定	-																					
学科の目的	情報処理に関する基礎知識・技術と一般教養(商業実務・文書作成等)を学び、情報処理に関する基礎知識の習得と社会常識を備えたコンピュータ技術者を育成する。学ぶ内容によって、システムエンジニアまたは、ITエンジニアを育成する。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																			
2年	64単位	30単位	18単位	16単位	-	-																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
40人	10人	0人	3人	2人	5人																				
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価																						
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月 5日 ■夏季: 8月 8日～8月30日 ■冬季: 12月24日～1月 6日 ■学年末: 2月 6日～3月31日		卒業・進級条件																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的な家庭と連絡を取っている		課外活動																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) IT、製造		主な学修成果(資格・検定等)※3																						
	■就職指導内容 学生の希望に応じて個別に対応																								
■卒業生数 5人		■卒業生に占める就職者の割合 20%		■課外活動の種類 学生会による企画運営・ボランティア等																					
■就職希望者数 4人		■就職者数 1人		■サークル活動: 無																					
■就職率 25%		■進学者数: 1人		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																					
■その他				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報処理技術者</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	情報処理技術者	③	5人	1人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
情報処理技術者	③	5人	1人																						
(令和 元 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)				※課外活動の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																									
中途退学の現状	■中途退学者 0名		■中途退学率 0%																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的に就学困難な学生に対し、授業料の減免を行う。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																								
当該学科のホームページURL	https://www.ycb.ac.jp																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者を含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

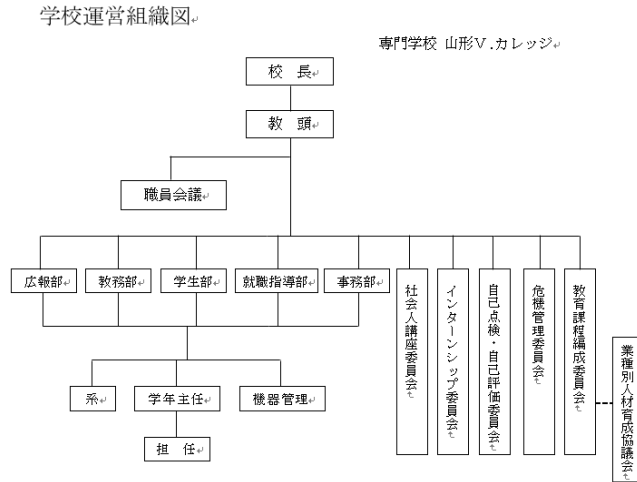
1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会を通し、現在当地域で必要とされている技能知識人物像について参加企業からの意見を受け当該学科のカリキュラムおよび授業内容の編成に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 隆一	株式会社でん六 代表取締役社長 山形商工会議所 副会頭	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	①
佐藤 一	山形小木医科器械株式会社 代表取締役社長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
早坂 実	株式会社サンセットスタジオ 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
森 昭宏	有限会社マックベース 社長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
鈴木 敬尚	株式会社スズキ通商 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
岸 裕紀	株式会社ウィル 代表取締役社長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
大久保 章宏	株式会社大久保硝子店 代表取締役社長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
鈴木 静江	学校法人山本学園竹田和裁研究所 事務長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
半澤 和仁	東北電化工業株式会社 総務部次長兼人事労務課長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
今井 啓三	弘栄設備工業株式会社 常務取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
山本 絵里子	学校法人山本学園 副理事長 竹田幼稚園・竹田西部幼稚園 園長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
八矢 由子	専門学校 山形V.カレッジ 教頭	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
梅津 隆雄	専門学校 山形V.カレッジ 情報・建築系主任	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
堀川 栄美子	専門学校 山形V.カレッジ ファッションビジネス系主任	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
渡辺 聡	専門学校 山形V.カレッジ 教員(学校内教育課程編成委員)	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	

後藤 清彦	専門学校 山形V.カレッジ 教員(学校内教育課程編成委員)	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)
-------	-------------------------------	-----------------------------

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)
年2回

(開催日時(実績))

- 第1回 令和元年10月21日 16:00～17:00
- 第2回 令和2年 2月19日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

Webベースのプログラミング授業を強化するよう改善。時代に即した新たな科目を検討。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日々変化し続けている企業・社会のニーズに対応できる職業人基礎力の修得と先進教育を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

YTS山形テレビ内にて、リアルタイムで対戦校の得点経過を更新するシステムを運用した。最大4球場にいるスタッフからの電話連絡を受け、RSB専用パソコンから得点を入力し、確認して更新する。学生の実習内容に応じて評価していただいた。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
HTML&CSS	リアルタイムでのHP更新システムを運用する。	(株)ウィル

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

就業規則にある「教職員やその職務遂行のため、自発的に研修に励み、かつ、学園又は各種団体等の行う研修をうけるなど、資質の向上に努めなければならない。」ことを受け、企業等が行う研修会等への参加し最新技術の傾向を把握し、導入していく。また、学生の長期休暇を利用した教材指導内容の研究としてISO/IEC9899:2011に対応したANSI-Cの内容を授業に取り込むよう演習内容等を更新した。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

令和元年8月 アルゴリズム研究1

対象者 渡辺

内容:数値編集アルゴリズムを考察し、様々な形式の数値データを文字列として表記する技法についてまとめる。 3日間

令和元年9月 アルゴリズム研究2

対象者 渡辺

内容:文字列誤り検出アルゴリズムについて探求し、複数の文字に誤りがある場

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「専門学校現状と今後の方向性」(連携企業等:全国専修学校各種学校総連合会 東北ブロック会)
 期間:令和元年10月4日(金) 対象:東北地区専門学校教職員
 内容:文科省より行政説明 全国専修学校状況報告
 講演「高大接続改革を踏まえたこれからの専門学校に求められる方向性とは」

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

ディープラーニング教育研究会
 同会サミット参加

②指導力の修得・向上のための研修等

山形県専修学校各種学校協会
 令和2年度設置者・校長・教職員研修会参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学園が提供する教育サービスに対して、少子化の問題や保護者・地域社会の要求水準の高まりによって、教職員の専門性のみで経営方針を策定することは困難な時代が到来している。地域社会との融合・環境との調和を常に念頭に置き、ときに互いに相矛盾しそうな状況を調整していく必要がある。こうした学園を巡る環境変化の中で、自主的・自律的な学校経営を確立するためには、園児・生徒・学生、保護者、卒業生、地域住民、企業等様々な職種の教職員といった主要ステークホルダー(関係各位)に対する自らのミッション(使命)を明確にする必要がある。学校関係者評価の取組を通じて、教職員や保護者、地域住民等が学校運営について意見交換し、学校の現状や取組を知り課題意識を共有することにより、学校評価をコミュニケーション・ツールとして、保護者・地域住民・企業の学校運営への参画を促進し、共通理解に立ち家庭や地域に支えられる開かれた学園づくりを進めていくことが期待される。さらに、学校評価を軸とした情報の共有と連携協力の促進を通じて、学校・家庭・地域・企業それぞれの教育力が高められていくことが期待できる。学校内外の能力・資源を開発・活用し、学園に関与する人たちのニーズ・ウォンツに適切に適合させ、個々の年齢に応じた適切な学校

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	目標設定、達成状況
(2) 学校運営	取り組みの状況
(3) 教育活動	学校・園の自己評価報告
(4) 学修成果	次年度に向けての改善方策
(5) 学生支援	学校・園の良さと認められる点
(6) 教育環境	学校・園の改善点及び方策
(7) 学生の受入れ募集	取り組みの状況
(8) 財務	決算報告、監査報告
(9) 法令等の遵守	監査報告
(10) 社会貢献・地域貢献	取り組みの状況
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

○企業との連携について

高校生及び専門学校生を対象にワーキングアドベンチャー(企業人との座談会)を開催し、約20社の企業にご協力いただいた。若者と企業人の双方向性によるコミュニケーションスキルの習得と、企業人の生の声を身近に感じ確かな職業理解を促すことが目的で、毎年多くの企業に参加いただいている。また、人材育成協議会を開催し、企業のトップの方との懇談を深め、県内企業との連携の強化が図られている。

○学生募集について

キャリア教育を高め、地元企業とのパイプを強化し就職に強い学校をアピールし学生募集に繋げたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
山本恒雄	山本学園理事長 竹田和裁研究所所長	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4年)	学園関係者

関 義 人	山本学園理事 山本学園高等学校校長	令和2年1月1日～ 令和5年12月31日 (4年)	学園関係者
遠 藤 陽 子	山本学園理事 山本学園同窓会竹朋会会長	令和元年6月1日～ 令和5年5月31日(4 年)	同窓会
大久保 章 宏	山本学園理事 (株)大久保硝子店代表取締役社長	平成29年4月28日 ～ 令和2年4月27日(4 年)	企業等委員
塚 崎 敏	山本学園監事 元山形芸術学園専務理事・校長	令和2年4月28日～ 令和6年4月27日(4 年)	地域住民
安孫子 英 彦	山本学園監事 安孫子総合法律事務所弁護士	平成29年4月28日 ～ 令和2年4月27日(4 年)	企業等委員
山 本 幹 雄	竹田西部幼稚園副園長 兼学園本部理事長室長	令和元年4月1日～ 令和5年3月31日(4 年)	学園関係者
川 口 昌 史	専門学校山形V.カレッジ同窓会「清山会」会長 (株)IC-NETリカバリー事業部係長	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4 年)	企業等委員
伊 藤 淳	学園本部事務局長兼経理部長	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4 年)	学園関係者
大 沼 義 和	山本学園同窓会竹朋会副会長	平成30年6月1日～ 令和4年5月31日(4 年)	同窓会
鈴 木 静 江	竹田和裁研究所(就職先)事務長 旧竹田家政専門学校卒業生	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4 年)	企業等委員・卒業生
波多野 陽 一	ピーウィー保育園施設長	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4 年)	学園関係者
松 井 寿 夫	山本学園高等学校教頭	平成30年6月1日～ 令和4年5月31日(4 年)	学園関係者
東海林 真 美	竹田西部幼稚園総務主任	平成30年6月1日～ 令和4年5月31日(4 年)	学園関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.ycb.ac.jp>

公表時期: 令和2年10月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

分かりやすい情報を提供した上で必要な改善を行い、「授業の質保証を担保すること」を基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.ycb.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科) 令和1年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			電子計算機概論	コンピュータの基礎知識であるコンピュータの概論を初歩から勉強し、コンピュータの基礎知識を習得する。	1前	60	2	○			○	○			
2	○			ハードウェア論1	前期で行う、電子計算機概論の不足部分の知識習得を行う。	1後	60	2	○			○	○			
3	○			IT活用実習	ワードの文書入力、図や表、エクセルの関数や体裁などやや高度な使用法を学ぶ。	1通	150	5			○	○				○
4	○			商業会計	会計ソフトを使用し、簿記上の取引から決算書の作成まで体系的に学習します。	1通	60	2			○	○				○
5	○			ネットワーク演習1,2	進歩の著しいマルチメディアの基礎知識や技術に加え、新しいメディアとしての情報デザインの方法、知的所有権等の社会背景まで学ぶ。また、プレゼンテーション能力の向上を図る。	1通	60	2		○		○	○			
6	○			プログラミング基礎	アルゴリズムの学習→フローチャート→コーディング→マシンでの実行を繰り返し基礎的なプログラミング能力を取得する。	1前	60	2		○		○	○			
7	○			アルゴリズム	プログラム基礎のアルゴリズムの学習分野を引き続き行う。	1後	60	2		○		○	○			
8	○			HTML&CSS	HTMLの要素を学習しツールに頼らずにページを作成したCSSを使用して体裁を整える技術を取得する。	1前	60	2			○	○				○
9	○			ビジネス実務1	就職活動全般に関する基本的な事項の習得し、就職活動を円滑に進められるように準備して行く。	1通	60	4	○			○	○			
10	○			キャリア実習1	1年次にインターンシップ・ボランティア・アルバイトを経験することにより、自ら考え、自ら行動する力を育むことを目標とする。	1後	60	2			○		○	○		
11	○			DB	データベースソフトのアクセスについて知識技能を取得する。	1後	30	1			○	○				○
12	○			Photoshop	デジタル作品を手掛けるデザイナーが扱う代表的なペイント系ソフトである「Adobe Photoshop」の基本的な操作を学習する。	1通	60	2			○	○				○

13	○		VBA1	VBA言語の学習およびオフィスソフトプログラミングの技術を取得する。	1後	60	2			○	○	○						
14		○	イラストレーションペインティング	クライアントからの「依頼」に対する答えを、作品やアイデアとして実体化させるために必要となる柔軟な思考と発想力を養う。	1通	60	2			○	○							○
15		○	ビジネス検定対策	社会で必要とされる常識・技能（漢字・語彙力・ビジネス文書作成）などを習得します。	1通	60	2	○			○			○				
16	○		プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトの使用法とプレゼンテーションの技術を取得する。	2前	30	1			○	○							○
17	○		ハードウェア論2	1年次の電子計算機概論、ハードウェア論に続き計算機についてさらに高度な知識を学習する。	2前	30	1	○			○			○				
18	○		ソフトウェア論2	ソフトウェアを開発するために必要な知識や考え方を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○				
19	○		卒業制作	2年間の学習を踏まえ個々に設計段階からシステムを制作する。	2後	90	3			○	○			○				
20	○		マネジメントゲーム	ビジネスゲーム（経営シミュレーションゲーム）を体験しながら、実践的な経営戦略、会計理論、技法を習得する。	2後	30	1			○	○							○
21	○		ビジネス実務2	担任・就職指導部による、全体指導・クラス毎指導・個別指導を行い、自己理解を進めながら、早期就職内定を目指す。	2通	60	4	○			○			○				
22	○		キャリア実習2	2年次にインターンシップ・ボランティア・アルバイトを経験することにより、自ら考え、自ら行動する力を育むことを目標とする。	2後	60	2			○				○				○
23		○	システム開発	卒業制作に向けて一般的なシステムの開発技術を学ぶ。	2前	60	2			○	○			○				
24		○	複合文書演習	卒業制作に向けてオフィスソフトでのシステムの開発技術を学ぶ。	2前	60	2			○	○			○				
25	○		プログラム演習	C言語の応用技術を身に付ける	2前	30	1			○				○				
26	○		プログラム応用	複数の言語の学習を通じてプログラミングに共通する考え方、技術を取得する。	2後	30	1			○				○				○
27	○		コンピュータ会計	コンピュータ会計の基礎的内容を学び全国経理教育協会主催コンピュータ会計能力認定試験3級取得を目指す。	2通	60	2			○	○							○

28	○		ExcelVBA	エクセルのソルバーやピボットテーブル、マクロ等高度な使用法を学ぶ。	2前	60	2			○	○			○
29	○		AccessVBA	アクセスのマクロ、VBA等高度な使用法を学ぶ。	2後	60	2			○	○			○
30	○		C#	C#言語の学習およびWindowsプログラミングの技術を取得する。	2通	120	4			○	○			○
31	○		PHP	PHP言語の学習およびサーバサイドプログラミングの技術を取得する。	2後	30	1			○	○			○
32	○		NIE	身近な情報紙である新聞を活用し、生活に関連する問題から、日本・世界の問題まで関心を広げる。また、一つのテーマを選定し、班で新聞を作成する。	2通	60	2			○				○
33	○		ホームページ作成	ツールを使用して複数ページからなるサイトの作成運用技術を学習する。	2通	60	2			○	○			○ ○
合計			33科目			単位時間(66単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
64単位 講義、演習、実習	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。